

WebFOCUS メンテナンスリリースの適用 for Windows Version 8.2.06.38

このドキュメントでは、すでにインストールされている WebFOCUS for Windows 8.2.06 に対して、メンテナンスリリース 8.2.06.38 の適用のため、WebFOCUS Reporting Server の更新インストール、WebFOCUS Client の更新インストール、Resource Analyzer の日本語パッチの適用、WebFOCUS App Studio の更新インストールについて説明します。

以下のトピックスを確認し、必要な作業を行ってください。

トピックス

対象ユーザ

□ メンテナンスリリースの入手方法について	✓ すべてのユーザ
□ メンテナンスリリース 8.2.06.38 の内容について	✓ すべてのユーザ
□ WebFOCUS Reporting Server の更新インストール	✓ すべてのユーザ
□ WebFOCUS Client の更新インストール	✓ すべてのユーザ
□ Resource Analyzer 日本語パッチの適用	✓ Resource Analyzer 利用ユーザ
□ WebFOCUS App Studio の更新インストール	✓ すべてのユーザ (App Studio 利用ユーザ)
□ メンテナンスリリース 8.2.06.38 リリースノート	✓ すべてのユーザ
□ メンテナンスリリース 8.2.06.38 で新たに確認された問題	✓ すべてのユーザ
□ メンテナンスリリース 8.2.06.38 で修正された問題	✓ すべてのユーザ

メンテナンスリリースの入手方法について

WebFOCUS for Windows 8.2.06 のメンテナンスリリースのモジュールは、以下の FTP サイト URL から zip 形式の圧縮ファイルをダウンロードしてください。ダウンロードは、Windows エクスプローラ、もしくは FTP クライアントソフトウェアを使用してください。

FTP サイト URL
ftp://ftp.ashisuto.co.jp/pub/ibi/Patch/WebFOCUS/8206_38

zip ファイルにはパスワードが設定されています。ダウンロード後、以下のパスワードで解凍してご使用ください。

適用対象	ディレクトリ名	ファイル名	パスワード
Windows 版 WebFOCUS	Windows	wf820638win.zip	wf202208
Linux 版 WebFOCUS	Linux	wf820638lnx.zip	wf202208
App Studio App Studio Report Developer	App Studio	wf820638app.zip	wf202208

メンテナンスリリース 8.2.06.38 の内容について

WebFOCUS for Windows メンテナンスリリース 8.2.06.38 は、以下のモジュールを含んでいます。

- WebFOCUS Reporting Server
- WebFOCUS Client
- Resource Analyzer 日本語パッチ
- WebFOCUS App Studio

WebFOCUS Reporting Server の更新インストール

【事前確認】

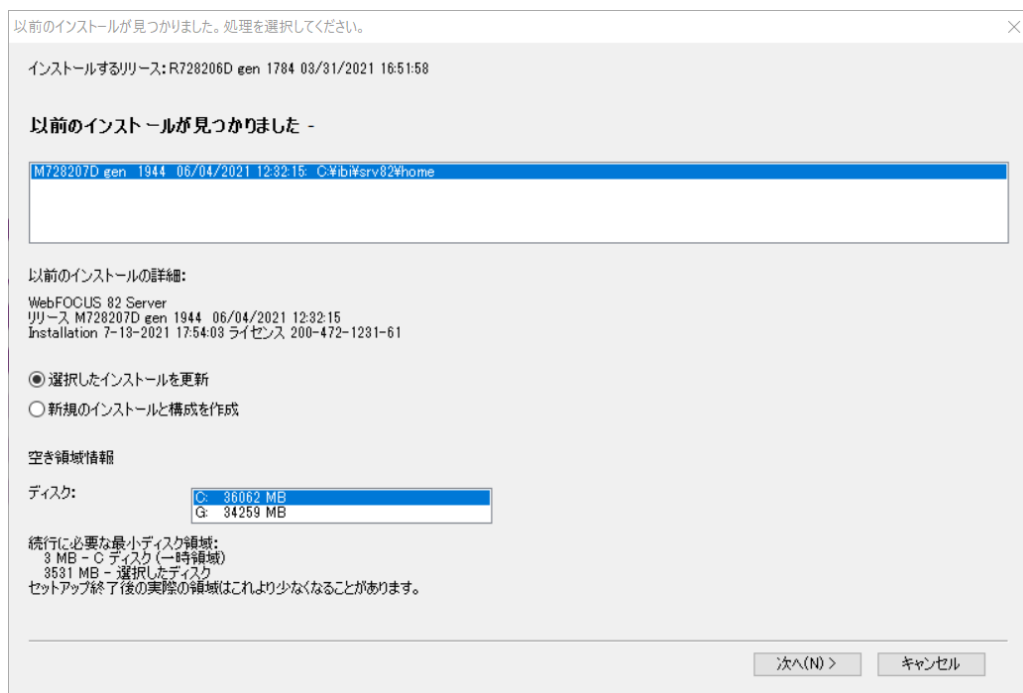
WebFOCUS Reporting Server を更新インストールする前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

例：C:\ibi\srv82

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server の更新インストールを行ってください。

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを停止します。
2. FTP サイトからダウンロードしたモジュール ([wf820638win.zip](#)) を解凍し、[IBI¥64bit¥Server](#) ディレクトリにある [setup.exe](#) をダブルクリックします。
3. 以下の画面が表示されたら、【事前確認】で確認した Reporting Server インストールディレクトリ内の対象サーバを選択し、「次へ」を選択します。（※下記画面の以前のインストールのリリース情報は実際と異なります。）



4. メッセージに従って更新インストールを完了します。

以上で WebFOCUS Reporting Server の更新は終了です。

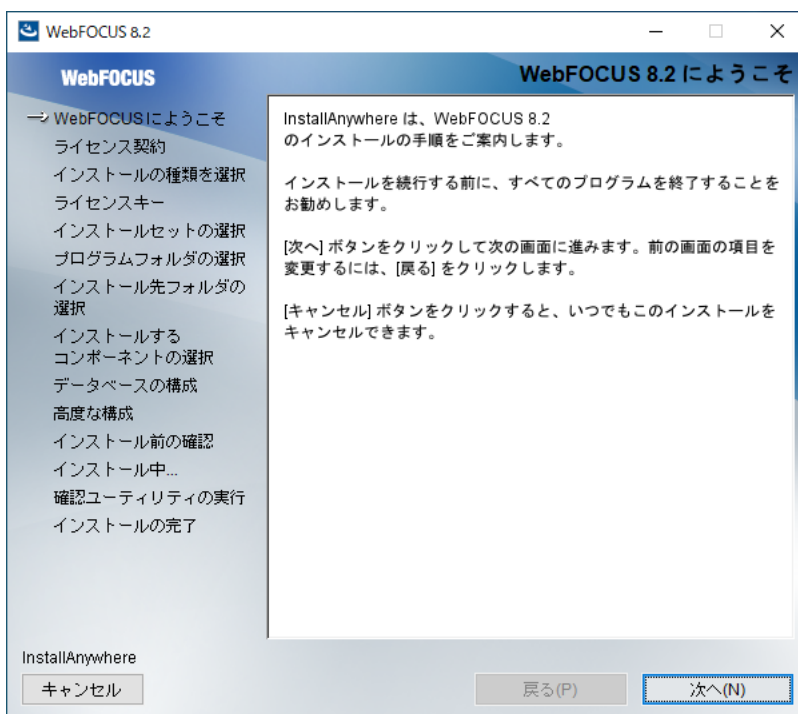
WebFOCUS Client の更新インストール

以下の手順で WebFOCUS Client を更新インストールします

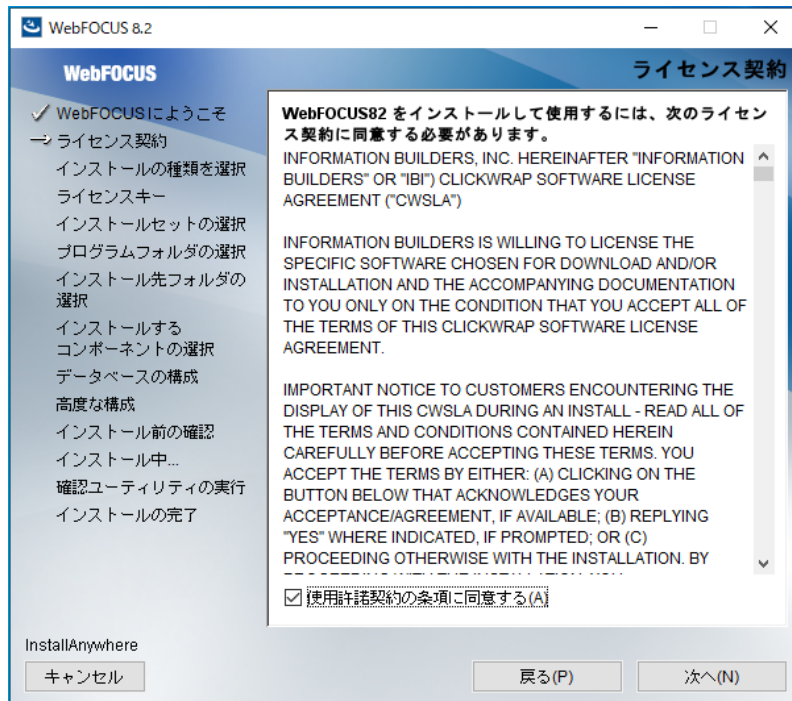
1. Application Server と Web サーバのサービスを停止します。
2. WebFOCUS Reporting Server と ReportCaster のサービスを停止します。
3. FTP サイトからダウンロードしたモジュール ([wf820638win.zip](#)) を解凍し、
[IBI¥64bit¥Client](#) ディレクトリにある [installWebFOCUS8206.exe](#) をダブルクリックします。
4. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



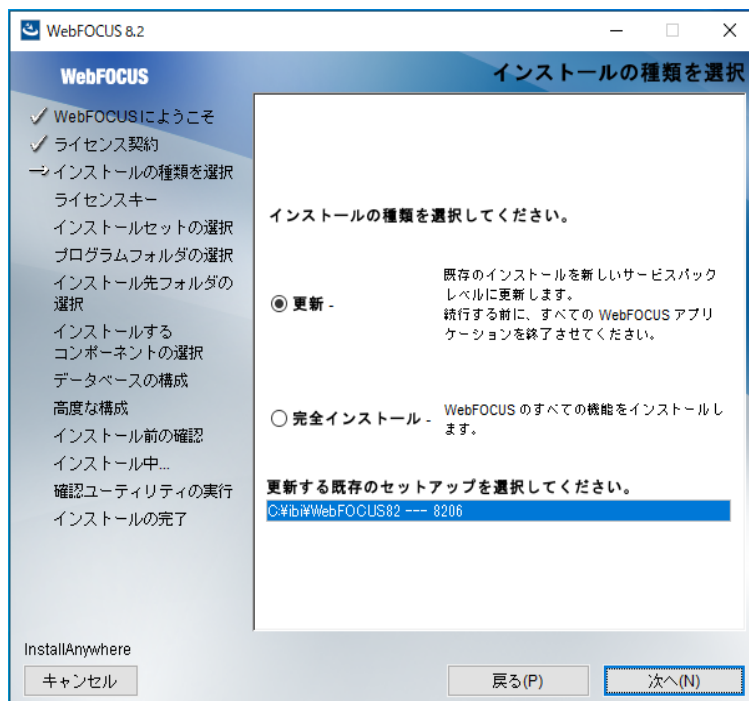
5. 「WebFOCUS 82 によるこそ」ウィンドウが開きますので、「次へ」をクリックします。



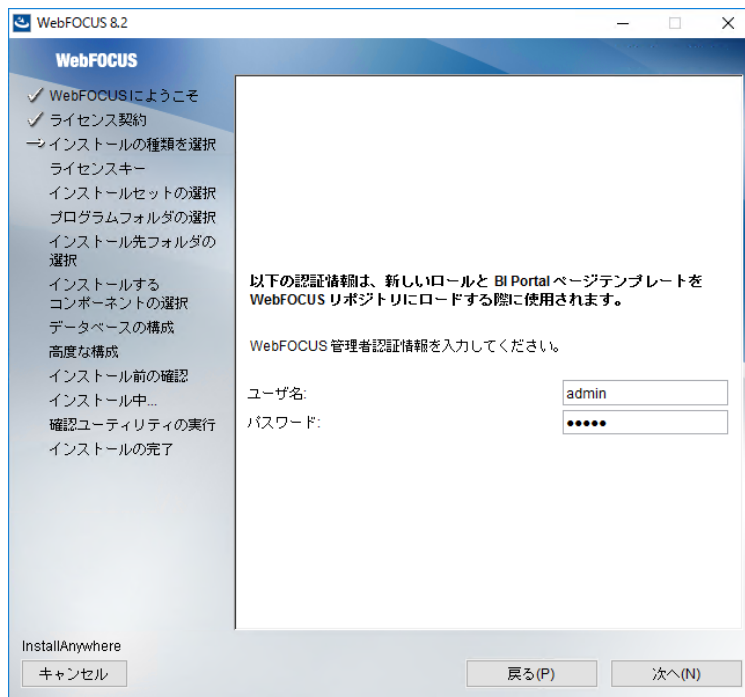
6. 「ライセンス契約」ダイアログボックスが開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



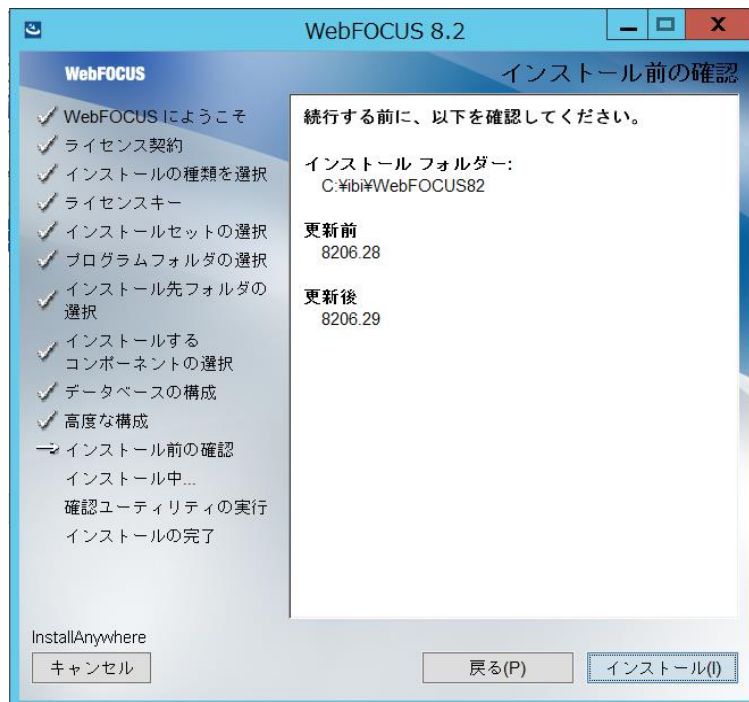
7. 「インストールの種類を選択」ダイアログボックスが開きますので、「更新」のラジオボタンを選択し、「次へ」をクリックします。



8. WebFOCUS 管理者認証情報を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。



9. 「インストール前の確認」ウィンドウが開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。更新インストールが開始されます。（※下記画面の更新前と更新後のバージョン表記は実際と異なります。）



10. 更新インストールの完了後、WebFOCUS Reporting Server と ReportCaster のサービスを起動します。

11. Application Server と Web サーバのサービスを起動します。

以上で WebFOCUS Client の更新は終了です。

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

Resource Analyzer 用の日本語パッチは WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリに適用します。日本語パッチを適用する前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

例：C:\ibi\srv82

注意：日本語パッチを適用する際は、WebFOCUS Reporting Server を必ず停止してください。

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

64bit¥Server¥patch_8206s

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

バッチファイルの実行

1. 文字コード環境(SJIS, Unicode)に該当するバッチファイルをダブルクリックします。

(SJIS の場合) [ra_sjis.bat](#)

(Unicode の場合) [ra_utf8.bat](#)

2. 表示されるプロンプトで、WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを選択し、Enter キーを押します。

以上で Resource Analyzer 日本語パッチの適用は終了です。

WebFOCUS App Studio の更新インストール

【事前確認】

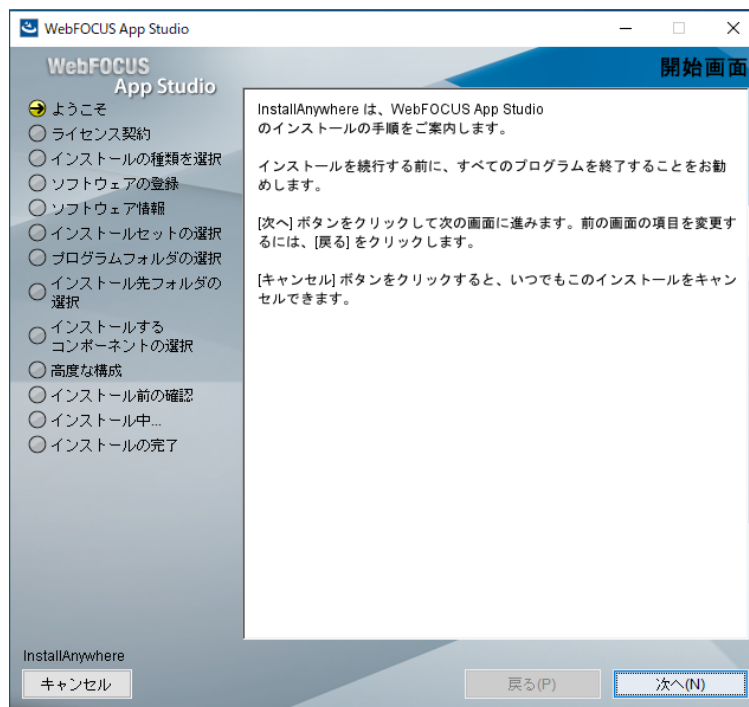
この作業は WebFOCUS App Studio（または App Studio Report Developer）をインストールしたすべての端末で行います。更新インストールをする前に WebFOCUS App Studio（または App Studio Report Developer）をインストールしたディレクトリを確認してください。

【WebFOCUS App Studio インストールディレクトリ】

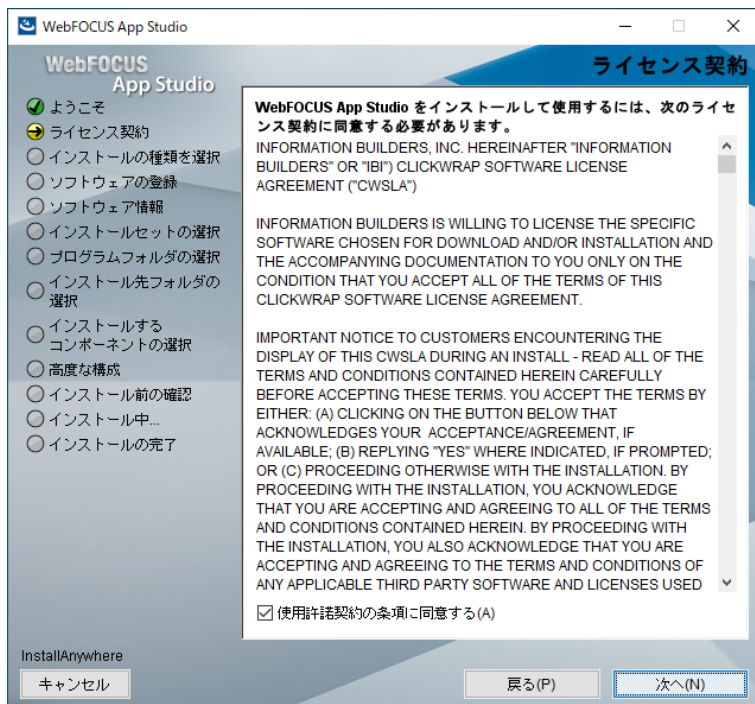
例：C:\¥ibi¥AppStudio82

以下の手順で WebFOCUS App Studio の更新インストールを行ってください。

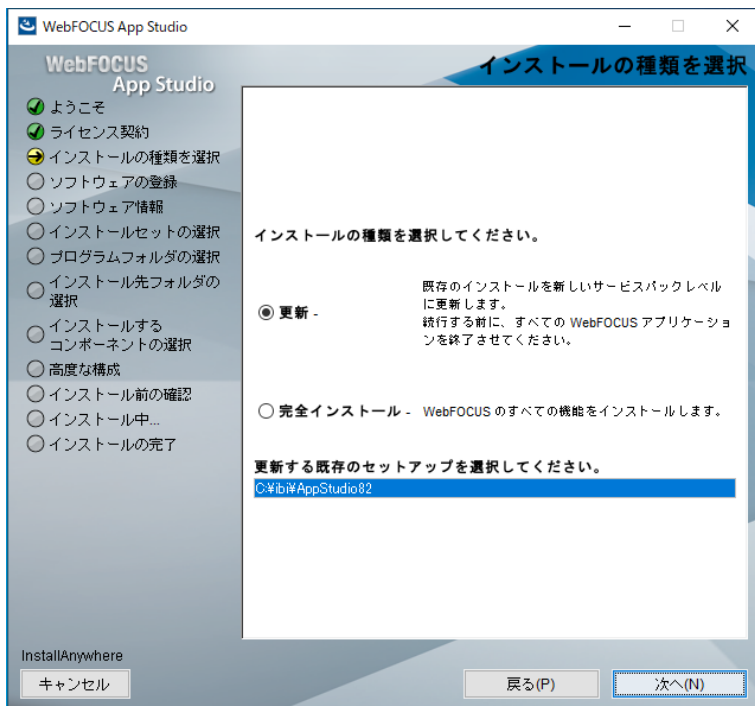
1. FTP サイトからダウンロードしたモジュール ([wf820638app.zip](#)) を解凍し、[IBI¥64bit](#) ディレクトリにある [AppStudio8206.exe](#) をダブルクリックします。
2. インストールの開始画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



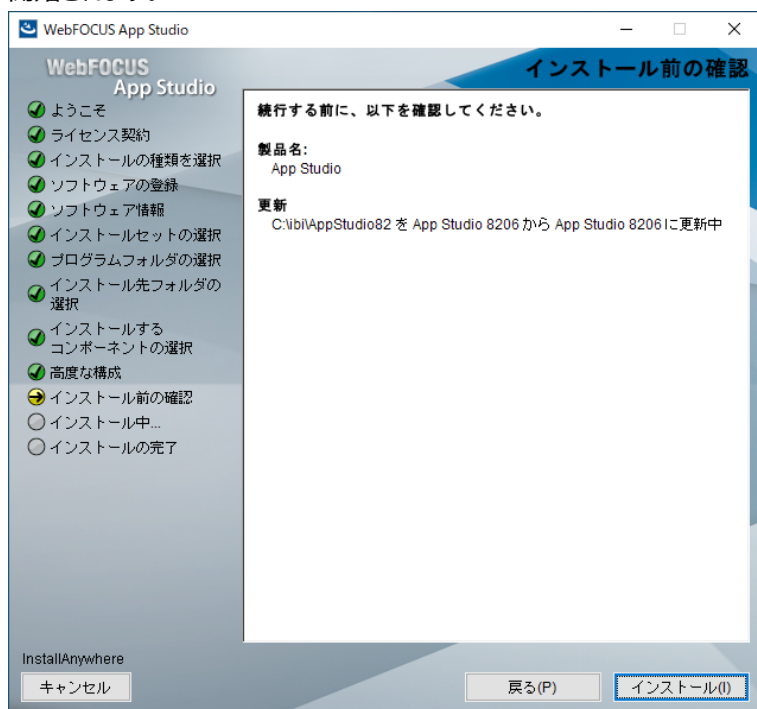
3. 「ライセンス契約」ダイアログボックスが開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



4. 「インストールの種類を選択」ダイアログボックスが開きますので、「更新」のラジオボタンを選択し、「次へ」をクリックします。



5. 「インストール前の確認」ウィンドウが開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。更新インストールが開始されます。



以上で WebFOCUS App Studio の更新は終了です。

メンテナンスリリース 8.2.06.38 リリースノート

BV_NAMESPACE=ON 設定の廃止

バージョン 8.2.01M の新機能として紹介されたビジネスビュープラス（BV+）機能では、シノニム中に論理フォルダ（ビジネスビューフォルダ）を作成しフィールドを管理するために BV_NAMESPACE=ON モードが使用されていましたが、バージョン 8.2.06 でこの設定は廃止されました。バージョン 8.2.06 では、データアシストでシノニムを開くとデフォルトで BV_NAMESPACE=OFF モードが設定され、BV_NAMESPACE=ON モードに変更しなくてもビジネスビューとしての論理フォルダの作成とディメンションビューとしての階層の設定を行うことが可能です。

バージョン 8.2.06 では、上位互換性を維持するため、以前のバージョンの BV_NAMESPACE=ON モードで作成されたシノニムを継続して利用することができますが、JOIN を使用した場合に複数の既知の問題が報告されているため、BV_NAMESPACE=ON モードの利用は推奨しておりません。

<BV_NAMESPACE=ON モードで発生する既知の問題>

非互換・注意点リスト 管理番号	内容
763254	JOIN のホストファイル(親側)に BV_NAMESPACE=ON を指定したビジネスビュー(BV)を使用し、JOIN キーとして一時項目を設定すると（FOC370）エラーが発生します。
764187	Excel ファイルのデータを JOIN し、BV シノニムで「BV_NAMESPACE」が有効になっている状態で、DEFINE 項目を作成しレポートに指定すると FOC003 エラーが発生します。

ブラウザ要件 : Microsoft Edge サポートについて

WebFOCUS の対応ブラウザとして、Microsoft Edge (Chromium)が追加されました。

App Studio の出力ビューアとして Edge を使用することはサポートされません。

以下はメンテナンスリリース 8.2.06.38 でメーカーが動作確認を行ったブラウザバージョンの一覧です。

- Google Chrome Version 94
- Firefox Version 92
- Microsoft Edge (Chromium) Version 89 ※App Studio を除く

メディアに同梱される Java バージョンについて

Linux 版のメンテナンスリリース 8.2.06.38 では OpenJDK Runtime Environment (AdoptOpenJDK) build1.8.0_242-b08 (8u242) が同梱されています。Linux 版は、必要に応じて事前に構成の上ご使用ください。Windows 版のメンテナンスリリース 8.2.06.38 では Java (TM) SE Runtime Environment build1.8.0_241-b26 (8u241) がインストールにより自動構成されます。

メディアに同梱される Tomcat バージョンについて

メンテナンスリリース 8.2.06.38 では Apache Tomcat 8.5.51 が同梱されています。新規導入時は、インストールにより自動構成されます。更新インストールにおいては Tomcat のバージョンアップはされませんので、必要に応じて当該バージョンの Tomcat をインストール、構成の上ご使用ください。

ReportCaster Distribution Server の設定情報について

ReportCaster Distribution Server をサービスから起動する場合、メンテナンスリリースの適用にあたって、レジストリの設定情報が初期化されます。レジストリで Java の文字コード、最小ヒープサイズ、最大ヒープサイズ等の設定をしていた場合はパラメータ値を再設定する必要があります。

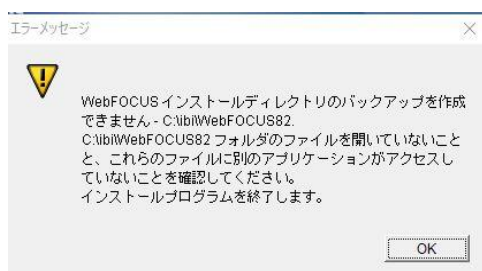
Distribution Server レジストリ設定情報の編集方法

1. [スタート]メニューをクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行]を選択します。
3. [regedit]と入力し[OK]をクリックします。
レジストリエディターが開きます。
4. 以下のキーを展開します。
`[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥InformationBuilders¥ReportCaster¥WF82¥Parameters¥Java]`
5. [Options](文字コード等)、[JvmMs](最小ヒープサイズ)、[JvmMx](最大ヒープサイズ)等のパラメータを右クリック、[修正]を選択します。値を設定し、[OK] をクリックします。
6. Application Server を再起動します。
7. サービスを開き[WebFOCUS ReportCaster WF82]を右クリックし、[開始]を選択します。

Windows 版 WebFOCUS Client 更新インストール時に発生するエラー対応方法について

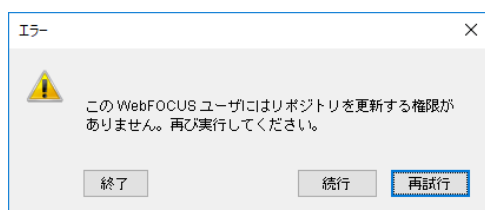
Windows 版の WebFOCUS Client の更新インストール実行中、以下のようなエラーが発生する場合があります。

- 「WebFOCUS インストールディレクトリのバックアップを作成できません」



このエラーは、更新インストール中に WebFOCUS のインストールディレクトリ（ファイル）が他のアプリケーションによって使用されている可能性があります。更新インストールを行う場合は、Application Server（Web サーバ）、WebFOCUS Reporting Server、ReportCaster の各サービスを停止してください。それでも同じエラーが発生する場合は、一度 Windows を再起動して、上記サービスを停止の上、再度更新インストールを実行してください。

- 「この WebFOCUS ユーザにはリポジトリを更新する権限がありません」



WebFOCUS Reporting Server（WebFOCUS Client Self Service）のみのライセンス更新インストールで上記エラーが発生する場合があります。このエラーは、更新インストールで WebFOCUS リポジトリ（Derby）を更新することができないことを意味しますが、Reporting Server のみのライセンスでは、リポジトリの更新は不要のため、「続行」ボタンをクリックして、更新インストールを継続してください。

メンテナンスリリース 8.2.06.38 で修正された問題

メンテナンスリリース 8.2.06.38 では、以下の問題と過去のメンテナンスリリースに含まれる全ての問題が修正されます。

管理番号	コンポーネント	内容
WFTEST-4515	App Studio	App Studio にて、IbComposer_triggerExecution 関数を使用し、AHTML レポートを実行した場合、正しくフレーム内に表示されず、別タブで表示されてしまうことがあります。
WFTEST-4652	InfoAssist	InfoAssist にて 1 プロシジャ内で複数リクエストを作成する場合、同名の一時項目を作成すると、Web ブラウザが応答なくなり、InfoAssist が起動できなくなります。
WFTEST-4656	InfoAssist	2 つの HOLD ファイルを交互に JOIN して、フィルタを作成すると、InfoAssist がハングアップします。
WFTEST-4708	Reporting Server	PNG 形式で棒グラフを出力すると、X 軸ラベルが 3 つ飛ばしで表示されます。
WFTEST-4711	In-Document Analytics	Analytic Document で、アクティブキャッシュ有効時にエクスポートを行った際、非表示項目(NOPRINT)が出力されません。

WFTEST-4770	Resource Analyzer	Resource Analyzer で、リポジトリロードタイプを[バルクロード]としてログのアーカイブジョブを実行すると、ログのステータスが「エージェントクラッシュ」となり、アーカイブができません。
WFTEST-4900	App Studio	HTML ファイルに配置されたカレンダーコントロールに特定の値を入力できません。入力できる値は範囲指定により異なります。
WFTEST-4920	InfoAssist	旧バージョンの InfoAssist で、JOIN 後の HOLD ファイルを再度 JOIN するプロシジャを作成し、8206.33 にバージョンアップ後の InfoAssist でプロシジャを再保存すると、該当の JOIN が 1 つに統合されてしまい InfoAssist で開くことができなくなります。
WFTEST-4921	InfoAssist	InfoAssist で、JOIN の親テーブルと HOLD ファイルを JOIN した際に、1 つ目の JOIN の子テーブル側の項目が見つからないエラーが発生します。
WFTEST-4922	InfoAssist	2 つの HOLD ファイルを相互に JOIN 後、HOLD ファイルを編集時 [クエリ] のレポートを右クリックして"編集"を行うと InfoAssist が動かなくなります。
WFTEST-4935	InfoAssist	8206.33 適用後、以前のバージョンで作成されたプロシジャを InfoAssist を開くと FOC370 エラーが発生する場合があります。

メンテナンスリリース 8.2.06.38 で新たに確認された問題

メンテナンスリリース 8.2.06.38 で確認された新規の問題は以下の通りです。メンテナンスリリースの適用にあたっては影響度を考慮してから適用していただくようお願いします。各問題の詳細、およびその他の問題につきましては、AWSC（アシストサポートサイト）からダウンロード可能な「不具合・非互換一覧」もあわせてご参照ください。

管理番号	コンポーネント	内容
WFTEST-2270	App Studio	[完了待ち] ステータスを使用し、以下の構成で実行完了を感知して JavaScript コールを呼び出そうとしたところ、実行が完了していないにもかかわらず 30 秒ほどで JavaScript コールが呼び出されてしまう。

以上